



イネ縞葉枯病の育苗箱施薬による防除

県病害虫防除所によると、本年 1～2 月に行ったイネ縞葉枯ウイルス（RSV）保毒虫率調査において、15 地点中 9 地点で保毒虫率が 5% 以上※となりました。このため、3 月 19 日付けで**病害虫速報**([sokuhour6-14.pdf](#))「**イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の高い地点が認められています**育苗箱施用によるヒメトビウンカの防除を行いましょう」を発表しています。

※ 農業研究所作成のイネ縞葉枯病防除マニュアルにおいて、育苗箱施用等による薬剤防除を推奨する値



↑ 新葉がこより状になる
← ヒメトビウンカ成虫(メス)

防除対策

<化学的防除>

- ① ウイルスの媒介虫ヒメトビウンカを対象に、育苗箱に殺虫剤を施用することが最も重要です。表 1 を参考に、**田植前に育苗箱施用を実施して、媒介虫ヒメトビウンカの防除を行ってください。**
- ② 近年、**育苗箱施用を行っても発病が多かった圃場では**、6 月中下旬に（防除適期については、今後、防除所より発表されます）ヒメトビウンカ幼虫を対象とした薬剤の本田防除も行ってください。なお、**育苗箱施用と本田防除の体系防除を行う場合には、ヒメトビウンカの薬剤抵抗性発達を抑えるため、箱施薬と本田防除で分類（IRAC コード）の異なる薬剤を使用してください。**

<耕種的防除>

- ① 本田における発病株の抜き取りやヒコバエ（再生イネ）の早期耕起、水田周辺のイネ科雑草の除草などを励行し、ウイルスの伝染源やヒメトビウンカ生息密度を常に低く抑制しておきます。
- ② 縞葉枯病抵抗性品種は、本病をほとんど発病せず、保毒虫率を徐々に下げる効果が期待できるため、**令和 8 年産の抵抗性品種の導入**を検討してください。

表 1 ヒメトビウンカ（ウンカ類）防除の主な水稻育苗箱施薬剤

（令和 7 年 3 月 26 日現在）

薬 剤 名		使用時期 / 使用回数	IRAC	対象病害	高密度播種に対応	FRAC
殺虫剤	フェルテラゼクサロン箱粒剤	播種時（覆土前）～移植当日／1 回	28 と 4E	—	○	—
	ゼクサロンパディート箱粒剤	播種時（覆土前）～移植当日／1 回				
	アドマイヤーCR箱粒剤	播種時（覆土前）～移植当日／1 回	4A			
	フェルテラチェス箱粒剤	移植 3 日前～移植当日 または播種時（覆土前）～移植当日／1 回	28 と 9B			
	リディア NT 箱粒剤	移植 3 日前～移植当日／1 回	4F			
殺虫 殺菌剤	防人箱粒剤	播種時（覆土前）～移植当日／1 回	28 と 4E	いもち病・もみ枯細菌病など	○	P03
	スクラム箱粒剤	移植 3 日前～移植当日 または播種時（覆土前）～移植当日／1 回	28 と 4E	いもち病、紋枯病など	○ ×	7 と P03
	フルスロトル箱粒剤	播種時（覆土前）～移植当日／1 回	28 と 4E	いもち病、紋枯病など	×	7 と P03

注 1) 使用方法については、薬剤ごとのラベルで必ず確認してください。使用量については、1 箱当たり 50 g 使用の他に**高密度に播種**する場合は 1 kg/10a 使用（育苗箱 1 箱当たり 50～100 g の使用）があります。

注 2) 縞葉枯病以外に、いもち病や紋枯病の常発地では、殺虫殺菌剤が有効です。

注 3) IRAC および FRAC コードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

各薬剤の取り扱いについては、お近くの農協に問い合わせください。

■ 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

■ 営農 News は J A 全農いばらきホームページでもご覧になれます。

農機営農支援部 営農支援課 電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040